

| | |
|--------|-------------------------------|
| 科目名 | 化学 |
| 授業形態 | 講義・観察 |
| 開講時期 | 1年前期 |
| 時間数・単位 | 20時間・1単位(生活科学の10時間と合わせて計30時間) |
| 授業担当者 | 名島 巖 |

【学習目標】

1. 歯科の基礎としての化学を理解し、歯科医療の場で学んだ知識を活用できるようにする
2. 放射線の種類と性質を学び、その利用法を理解する
3. 歯科で用いられる無機化合物及び有機化合物の名称と性質を理解する
4. 化学反応式、濃度、酸・塩基、pH、化学平衡、電離平衡、加水分解を理解し、各項目の計算ができるようにする
5. 歯科と関連のある生体関連の物質について、その構造・名称・性質及び物質間の関係を理解する

【授業計画】

| 回 | 授業題目 | 授業内容 | 到達目標 |
|----|------------|---|---|
| 1 | 物質の構造(1) | 原子の構造、原子番号と質量数・同位体、電子核とそのエネルギー、周期表と元素 | 周期表を理解し、その規則性を理解する |
| 2 | 物質の構造(2) | 周期表とイオン、電子式、イオン結合と共有結合分子、生体内のCa化合物 | 周期表と単原子イオン、多原子イオン、非金属元素の電子式と共有結合を理解する |
| 3 | 歯科と化学 | 歯や骨の成分、むし歯を科学的に説明 | 骨の脱灰、再石灰化、ミュータンス菌等を理解する |
| 4 | 物質の三態 | 物質の三態、水溶液の濃度、コロイド溶液 | 物質の三態の理解と水溶液の濃度の計算を理解する。またコロイドについて学習する |
| 5 | 酸と塩基(アルカリ) | 水の電離、酸と塩基の定義、酸塩基の価数酸、塩基の強弱・水素イオン濃度とpHの計算 | 酸と塩基に関する事項を理解し、計算方法を習得する |
| 6 | 物質の変化(1) | 化学反応式、活性化エネルギーと触媒、化学反応速度 | 化学反応の仕組、化学反応式のつくり方、化学反応速度と活性化エネルギー及び触媒について理解する |
| 7 | 物質の変化(2) | 可逆反応、化学平衡、電離平衡と緩衝溶液 | 可逆反応と化学平衡とルシャトリエの原理および緩衝作用について理解する |
| 8 | 物質の変化(3) | 酸化と還元、酸化数の変化、酸化剤、還元剤及び酸化還元反応について理解する。またイオン化傾向事象について理解する | 身のまわりの酸化還元反応について理解する |
| 9 | 有機化学 | アルコール、アルデヒド、カルボン酸、エステル | アルコールの酸化とアルデヒドの生成及びアルデヒドの還元及びカルボン酸とエステルについて理解する |
| 10 | 生体に関連する物質 | 糖類、アミノ酸、リン脂質 | 糖類とリン脂質について理解し更にアミノ酸とタンパク質について理解する |

【評価方法】

出席点、小テスト、定期考査の点数で査定する

【参考図書等】

最新歯科衛生士教本「化学」(医歯薬出版株式会社)
 高等学校検定教科書「化学」(東京書籍、数研出版)

【実務経験】

| | |
|--------|-----------------------------|
| 科目名 | 化学(生活科学) |
| 授業形態 | 講義 |
| 開講時期 | 1年前期 |
| 時間数・単位 | 10時間(化学の20時間と合わせて計30時間・1単位) |
| 授業担当者 | 浅海 真弓 |

【学習目標】

- 1.生活を科学的視点で把握する力を身につける
- 2.生活の諸課題の解決に向けて、主体的に行動できるようになる

【授業計画】

| 回 | 授業題目 | 授業内容 | 到達目標 |
|---|---------|---------------------------|---|
| 1 | 衣生活の科学① | 衣服の素材について(繊維の種類と構造、性質) | 衣服素材の性質について理解し、着用する季節や状況に適した素材を選択できるようになる |
| 2 | 衣生活の科学② | 衣服の洗濯について(洗剤の種類と汚れ除去のしくみ) | 洗剤の種類や特徴、汚れ除去のしくみを理解し、素材に応じて適切な洗濯方法を選ぶことができるようになる |
| 3 | 食生活の科学 | 健康的な食生活と食品の安全性について | 食事の栄養バランスや食の安全に対する現代の課題を理解し、自らの食生活の改善に向けて実践できる |
| 4 | 住生活の科学 | 住環境と健康・快適性との関わりについて | 健康で快適に生活するための住環境について理解する |
| 5 | 衣食住と環境 | 循環型社会と衣食住のリサイクルについて | 衣食住に関わるリサイクルの現状を理解し、それらの課題を解決するための行動へとつなげる |

【評価方法】

試験

【参考図書等】

「生活科学(第6版)」山本直成・浦上智子・中根芳一著(オーム社)
「身の回りから見た化学の基礎」芝原寛泰・後藤景子著(化学同人)

【実務経験】

| | |
|--------|-----------|
| 科目名 | 生物学 |
| 授業形態 | 講義 |
| 開講時期 | 1年前期・1年後期 |
| 時間数・単位 | 20時間・1単位 |
| 授業担当者 | 塔筋 弘章 |

【学習目標】

ヒトを含む生物のしくみや生物と環境との関わりを理解する

【授業計画】

| 回 | 授業題目 | 授業内容 | 到達目標 |
|----|------------|--------------------------|-----------------------------|
| 1 | 生物の基本構造 | 生物を構成する物質と細胞 | 生物を構成する物質および細胞の構造について理解する |
| 2 | 生命活動は化学反応 | 細胞の活動: 酵素、呼吸、代謝 | 酵素の働き、生物の代謝を理解する |
| 3 | 遺伝子からタンパク質 | DNAの構造と複製、翻訳 | DNAの構造と複製の方法、遺伝子発現を理解する |
| 4 | 卵から個体へ | 発生と分化: 細胞分裂、分化、生殖 | 受精卵が体を作っていくしくみについて理解する |
| 5 | 遺伝のしくみ | メンデルの法則 | 遺伝のしくみの基礎について理解する |
| 6 | 突然変異 | 遺伝子の損傷、修復、変異 | DNAの損傷とその修復、突然変異を理解する |
| 7 | バイオテクノロジー | 組換えDNA技術とバイオテクノロジー、iPS細胞 | これからの医学の基礎となるバイオテクノロジーを理解する |
| 8 | 進化論 | 進化論: ラマルクからダーウィンへ | 進化についての基本的な考えを理解する |
| 9 | 生物の進化 | 生物の系統、恐竜から鳥へ | 恐竜を題材に、生物の系統と進化について理解する |
| 10 | 人類の進化 | 哺乳類、ヒトの進化 | 哺乳類誕生からヒトへの進化について理解する |
| 11 | 水族館見学 | かごしま水族館見学 | 水生生物の種類や生活様式、環境について理解する |
| 12 | 水族館見学 | かごしま水族館見学 | 水生生物の種類や生活様式、環境について理解する |

【評価方法】

定期試験による学科試験を行う

【参考図書等】

必要に応じてプリントを配布する

【実務経験】

| | |
|--------|-----------|
| 科目名 | 心理学 |
| 授業形態 | 講義 |
| 開講時期 | 1年前期・1年後期 |
| 時間数・単位 | 30時間・1単位 |
| 授業担当者 | 小田 奈緒美 |

【学習目標】

“心”とは何か？「心をもつ人間」に対して深く理解(洞察)し、歯科衛生士としての感性を育み「心をもつ人間」に対する真の援助のありようを感得する
「心理学」の講義を通して、人間の心のもつ意味・背景を深く理解し、真の臨床援助のできる歯科衛生士としての自己成長を促す

【授業計画】

| 回 | 授業題目 | 授業内容 | 到達目標 |
|----|-------------------|----------------------------|-----------------------------------|
| 1 | 心理支援と人間観 | 人間学的心理学に立脚した人間観 | 治療者にとって大切な人間観・生きる意味の確立について知る |
| 2 | 心理支援と発達観・教育観・臨床観 | 人間学的心理学に立脚した発達観、教育観、治療観 | 発達観、教育観、治療観の理解を深め、治療者としての姿勢を育む |
| 3 | 心理支援のための心理査定 | 心理学的検査の数値のもつ意味の理解、援助的配慮の感得 | クライアントの大切な一部である査定の結果が表す意味を理解する |
| 4 | 心理療法とは | 精神分析療法、行動療法、人間学的心理療法について | それぞれの心理療法がもつ治療仮説について理解する |
| 5 | 心理支援者のあり方 | カウンセリングにおける支援のあり方について | カウンセリングに必要なセラピストの心構えについて感得する |
| 6 | 子どもの心理療法 | あそびのもつ意味、プレイセラピーについて | あそびのもつ心理的意味について深く理解する |
| 7 | 子どもの心理療法 | アクスラインの8つの原理について | アクスラインの8つの原理を通してセラピストとしてのうごきを感得する |
| 8 | 発達につまずく人間への心理支援 | 発達障害の概念と行動の理解 | 発達障害のクライアントの特徴を知り、理解を深める |
| 9 | 発達につまずく人間への心理支援 | 発達障害のクライアントへの発達援助のあり方について | 発達障害のクライアントの行動の意味、支援のあり方について理解する |
| 10 | 繊細で傷つきやすい人間への心理支援 | 自我と自己、自我関与のあり方について | 自我と自己、自我のあり方について理解する |
| 11 | 繊細で傷つきやすい人間への心理支援 | 自己実現、自己概念、自我の再体制化のあり方について | 自己概念について理解し、自己へのきづきを深める |
| 12 | PTSDの心理支援 | トラウマ、PTSDの症状について | PTSDのクライアントの症状について理解を深める |
| 13 | PTSDの心理支援 | PTSDのクライアントへの援助のあり方について | PTSDのみたてをもち、配慮ある適切なかかわりを身につける |
| 14 | 心の病気 | 似て非なるもの(心身症、神経症、精神病)について | 心の病気をもつクライアントへのみたてときづきを深める |
| 15 | 高齢者への心理支援 | エイジング、高齢者の自己概念のあり方について | 高齢者の抱えるものを理解し、援助のありようを感得する |

【評価方法】

定期試験による学科試験を行う(直筆ノート持込可)

【参考図書等】

必要に応じて資料を配布する

【実務経験】

本科目は、臨床心理士として実務経験のある教員による授業である

| | |
|--------|----------|
| 科目名 | 社会学 |
| 授業形態 | 講義 |
| 開講時期 | 1年後期 |
| 時間数・単位 | 20時間・1単位 |
| 授業担当者 | 日高 優介 |

【学習目標】

日本社会が抱える現代的課題の背景を社会学、人間理解の視点から理解する

学生にとっては身近な課題となる「地元」や「友人」「家族」について「コミュニケーション論」の立場から、日本社会の特質や顕在化する課題を理解する

【授業計画】

| 回 | 授業題目 | 授業内容 | 到達目標 |
|-----|-----------|--|--|
| 1 | 講義内容の紹介 | 講義内容の全体像を紹介し、社会学の講義において扱う諸問題を理解する | 現代の日本社会が抱える諸問題を理解し、社会学の視点から、社会現象、社会問題をどのように捉えるかを理解する |
| 2-4 | 青年期の諸問題 | 若者の地元志向、マイルドヤンキー、ひきこもりなどの青年期をめぐる社会現象を捉えつつ、他者との繋がりについて考える | 「やさしい関係」に代表される諸現象がどのようなかたちで社会構造とつながっているのかについて理解しつつ、これらを踏まえ自己と他者のつながりについて理解する |
| 5-6 | 家族 | 共依存、DV、児童虐待など夫婦の問題、親子関係をめぐる社会現象をとりあげ、そのメカニズムについて考える | 夫婦の問題、親子関係の問題がどのような社会的背景から生まれているのかを理解する |
| 7-8 | 社会調査 | 日常にあふれる数値や統計に関する、社会的理解を深め、社会調査方法を学ぶ | さまざまなメディアの中で使用される統計やデータを読み解く力をつけ、対象に接近するための量的・質的調査方法を理解する |
| 9 | コミュニケーション | 社会学の枠組みを用いて「コミュニケーション」をキーワードに現代の社会問題と照らし合わせて考える | コミュニケーションの持つ意義を理解し、人とかかわる存在としての医療従事者としての自覚を深める |
| 10 | 総括 終講試験 | 各人が設定したテーマについて、授業を通して得た社会的観点から考察する。試験に際しては、事前の準備(講義内で解説)が必要。 | 日本社会が抱える現代的課題の背景を各人が発見し、社会学、人間理解の視点から理解する。 |

【評価方法】

講義中の感想及びレポート形式の試験をもって評価する

【参考図書等】

講義にて資料を配布する

【実務経験】

| | |
|--------|----------|
| 科目名 | 健康社会学 |
| 授業形態 | 講義 |
| 開講時期 | 1年後期 |
| 時間数・単位 | 20時間・1単位 |
| 授業担当者 | 榎畑祐子 |

【学習目標】

健康の概念の変化を理解するとともに、人々の健康を脅かす社会的な生活問題について関心を持ち、21世紀の健康と社会のあり方および健康増進のためのアプローチについて考えることができる

【授業計画】

| 回 | 授業題目 | 授業内容 | 到達目標 |
|----|------------------------|---|--|
| 1 | ガイダンス、健康社会学とは、健康の今日的課題 | 健康と社会の理想的なあり方を追求するために人々の健康を脅かす社会的な生活問題について解説する | 健康社会学の概要、健康問題の今日的課題について理解する |
| 2 | 健康とストレス | 健康とストレスとの関連について概説し、これらの課題について健康増進のためのアプローチについてディスカッションを行う | ストレスに関わる健康増進のための創造的なアプローチについて考察することができる |
| 3 | 健康と身体活動① | 健康と身体活動(生活活動)について概説し、これらの課題について健康増進のためのアプローチについてディスカッションを行う | 身体活動(生活活動)に関わる健康増進のための創造的なアプローチについて考察することができる |
| 4 | 健康と身体活動② | 健康と身体活動(運動)について概説し、これらの課題について健康増進のためのアプローチについてディスカッションを行う | 身体活動(運動)に関わる健康増進のための創造的なアプローチについて考察することができる |
| 5 | 健康と肥満・やせと食生活・食行動 | 健康と肥満・やせと食生活・食行動について概説し、これらの課題について健康増進のためのアプローチについてディスカッションを行う | 肥満・やせと食生活・食行動に関わる健康増進のための創造的なアプローチについて考察することができる |
| 6 | 健康と喫煙・飲酒・薬物・依存症① | 健康と喫煙・飲酒・薬物・依存症(喫煙)について概説し、これらの課題について健康増進のためのアプローチについてディスカッションを行う | 喫煙・飲酒・薬物・依存症(喫煙)に関わる健康増進のための創造的なアプローチについて考察することができる |
| 7 | 健康と喫煙・飲酒・薬物・依存症② | 健康と喫煙・飲酒・薬物・依存症(飲酒)について概説し、これらの課題について健康増進のためのアプローチについてディスカッションを行う | 喫煙・飲酒・薬物・依存症(飲酒・薬物・依存症)に関わる健康増進のための創造的なアプローチについて考察することができる |
| 8 | 健康と生活習慣病・ヘルスプロモーション | 健康と生活習慣病・ヘルスプロモーションについて概説し、これらの課題について健康増進のためのアプローチについてディスカッションを行う | 生活習慣病・ヘルスプロモーションに関わる健康増進のための創造的なアプローチについて考察することができる |
| 9 | 健康と環境 | 健康と環境について概説し、これらの課題について健康増進のためのアプローチについてディスカッションを行う | 性に関わる健康増進のための創造的なアプローチについて考察することができる |
| 10 | レポート試験 | レポート試験 | 最終レポートの提出 |

【評価方法】

学習態度・状況(ミニツペーパー)、最終レポート等により評価する

【参考図書等】

適宜紹介する

【実務経験】

| | |
|--------|--------------|
| 科目名 | 人間関係論 |
| 授業形態 | 講義(演習・実習を含む) |
| 開講時期 | 1年後期 |
| 時間数・単位 | 15時間・1単位 |
| 授業担当者 | 神菌 紀幸 |

【学習目標】

人間関係の様々な側面を現代の心理学がどのように扱っているかについて概観し、その基本的な理論を理解すると共に、人間の社会的行動とそこに作用する心理的側面について、科学的な視点で論考できるようになる

【授業計画】

| 回 | 授業題目 | 授業内容 | 到達目標 |
|---|----------------------------|--------------------------|--|
| 1 | 「人間関係」の捉え方 社会的相互影響過程(1) | イントロダクション、人間関係の「法則」 | 人間関係を理解するための視座を築く |
| 2 | 社会的相互影響過程(2) | 社会的影響方略 | 様々な社会的相互影響過程を理解する |
| 3 | 社会的相互作用過程(1) | 小集団における社会的相互作用過程(1) | 日常的相互作用プロセスを科学的に分析できる |
| 4 | 社会的相互作用過程(2) | 〃 (2) | 日常的相互作用プロセスを分析的に捉え、論考できる |
| 5 | 社会的相互作用過程(3) | 小集団における社会的相互作用過程の体験と振り返り | 相互作用プロセスを体験し、科学的な視点で捉え直し、自らの対人行動についての省察を深める |
| 6 | 情報伝達プロセス | 対面的人間関係における情報伝達プロセス | 情報伝達プロセスについて理解した上で、日常的に人間関係の在り方について考えることができる |
| 7 | 対人関係の形成と発展・崩壊過程 | 対人魅力、対人認知、帰属理論 | 人間関係進展における心理的プロセスを理解する |
| 8 | 対面的人間関係についての詳細 | カウンセリング的関わりの基礎 | カウンセリングプロセスを援用したより良い人間関係のあり方について考えることができる |
| 9 | まとめ、評価試験 | | |

【評価方法】

出席状況、受講姿勢、提出物、筆記試験による

【参考図書等】

特に指定しない

必要な資料は講義中適宜配布する

【実務経験】

| | |
|--------|----------|
| 科目名 | 外国語 |
| 授業形態 | 講義 |
| 開講時期 | 1年前期 |
| 時間数・単位 | 30時間・1単位 |
| 授業担当者 | 山崎 美智子 |

【学習目標】

歯科英語に慣れ、英語による患者との簡単な会話ができるようになる

【授業計画】

| 回 | 授業題目 | 授業内容 | 到達目標 | Text |
|----|----------|---|------------------------|------|
| 1 | 導入・学習方法 | Introduction to English | 英語学習の仕方の確認・英語で自己紹介ができる | - |
| 2 | 英語の基礎 | 動詞の使い方 | 歯科医院で用いる表現をもとに文法の学習 | |
| 3 | 英語の基礎 | Be動詞・助動詞の使い方 | 歯科医院で用いる表現をもとに文法の学習 | |
| 4 | 予約 | 1. Making an appointment by telephone | 電話での予約に対応できる | p3 |
| 5 | 薬の依頼 | 2. Requests for medicine | 薬の処方について説明ができる | p9 |
| 6 | 救急の予約 | 3. Emergency appointments | 救急患者への対応の仕方を学ぶ | p15 |
| 7 | 救急の予約 | 3. Emergency appointments | 救急患者への対応の仕方を学ぶ | p16 |
| 8 | 健康保険 | 4. National Health Insurance | 国民健康保険の説明ができる | p21 |
| 9 | 問診:症状の説明 | 5. Asking the patient to describe symptoms | 歯の痛みについて尋ねることができる | p25 |
| 10 | 問診:症状の説明 | 5. Asking the patient to describe symptoms | 痛みの表現を学ぶ | p25 |
| 11 | 問診:病歴 | 6. Asking the medical history | 既往症について尋ねることができる | p33 |
| 12 | 問診:病歴 | 6. Asking the medical history | 既往症について尋ねることができる | p33 |
| 13 | ブラッシング | 13. Tooth Brushing instruction for a child | 子供に対してブラッシングの説明ができる | p95 |
| 14 | ブラッシング | 14. Tooth Brushing instruction for an adult | 大人に対してブラッシングの説明ができる | p95 |
| 15 | Review | Review | まとめ | |

【評価方法】

単語力、文法力、表現力を確認するための筆記試験および授業時の態度

【参考図書等】

最新歯科衛生士教本「歯科英語」(医歯薬出版株式会社)

【実務経験】

| | |
|--------|----------|
| 科目名 | 外国語 |
| 授業形態 | 講義 |
| 開講時期 | 2年前期 |
| 時間数・単位 | 30時間・1単位 |
| 授業担当者 | 徳留 由美 |

【学習目標】

- 1.言語表現技法を身につけること
- 2.英語で日常会話ができ、英語でのコミュニケーション能力が身につくこと
- 3.歯科に関する基礎英語力を身につけること

【授業計画】

| 回 | 授業題目 | 授業内容 | 到達目標 |
|----|----------------|----------------------|----------------------------|
| 1 | 言語としての英語Ⅰ | 英語を身近に感じる練習 | 英語を楽しむ気持ちを養う |
| 2 | 言語としての英語Ⅱ | 英語で自分の事を伝える練習 | 英語による自己紹介ができるようになる |
| 3 | Native English | 英語で遊ぶ | 外国人とのコミュニケーション練習 |
| 4 | 生活の中の英語 | 日常生活の中の英単語 | 生活の中で英語を身近に感じるようになる |
| 5 | 英語を身近に感じる練習Ⅰ | 英語で遊ぶ | 英語への苦手意識を減らす |
| 6 | 文化を英語で伝える | 日本文化や地元について、英語で伝える練習 | 英語でのコミュニケーションができるようになる |
| 7 | 歯科英語Ⅰ | 歯に関する知識を英語で表現 | 歯科英語の基礎を理解する |
| 8 | 歯科英語Ⅱ | 病院を訪れた外国の患者さんへの対応 | 外国人患者へ英語で会話できるようになる |
| 9 | 英語を身近に感じる練習Ⅱ | 英語で遊ぶ | 英語への苦手意識を減らす |
| 10 | 病気のあれこれ基礎英語Ⅰ | 英語で学ぶ基礎的な病気の症状や対処 | 病気の症状や対処法について英語での表現できる |
| 11 | 病気のあれこれ基礎英語Ⅱ | 英語で学ぶ基礎的な病気の症状や対処 | 病気の症状や対処法について英語での表現できる |
| 12 | 実践ロールプレイ | 実践的ロールプレイ | 外国人患者さんへの対応ができるようになる |
| 13 | 英語を身近に感じる練習Ⅲ | 英語で遊ぶ | 英語への苦手意識を減らす |
| 14 | 英語学習総まとめ | 学んだ講座の復習と質問 | 英語で自分の意見や考えを述べ、文章として応用ができる |
| 15 | 期末考査 | 試験 | 単位認定試験を実施し、到達度の確認を行う |

【評価方法】

対話力、読解力、リスニング力、ライティング力などの歯科英語技能模擬試験等を行う

【参考図書等】

電子英語辞典、英和及び和英辞典、CDプレイヤー
各講師の各授業に応じて作成された教材

【実務経験】

| | |
|--------|----------|
| 科目名 | 日本語表現法 |
| 授業形態 | 講義 |
| 開講時期 | 1年前期 |
| 時間数・単位 | 15時間・1単位 |
| 授業担当者 | 原田 義則 |

【学習目標】

歯科衛生士の職務を遂行する上で、基礎となる日本語文章の表記力及び表現力を身につける

【授業計画】

| 回 | 授業題目 | 授業内容 | 到達目標 |
|---|------------|---|---|
| 1 | オリエンテーション | 講義の目標・内容・方法・評価について説明する また、講師と受講生との信頼関係を構築する第1歩としての講師自身による自己紹介を行う | 講義の目標・内容・方法・評価について理解する 講義への積極的な受講のための構えを作る |
| 2 | 文章表記力について① | 文章作成の基本となる表記力について認識を高め、正確な文字の習得を図る | 誤字・脱字による文章作成を行わないために、文化庁の告示資料等を基にして、正確な表記をすることができる (常用漢字、異字同訓) |
| 3 | 文章表記力について② | 文章作成の基本となる表記力について認識を高め、正確な文字の習得を図る | 誤字・脱字による文章作成を行わないために、文化庁の告示資料等を基にして、正確に表記することができる (同音異義語、書き間違いやすい漢字、現代仮名遣い等) |
| 4 | 文章表現力について① | 効果的な文章表現スキルについて認識を高め、相手を想定した適切な文章を作成する | 適切な文章を作成するために、文化庁が示した指針等を基にして、正しい敬語の使い方について理解する |
| 5 | 文章表現力について② | 効果的な文章表現スキルについて認識を高め、相手を想定した適切な文章を作成する | 効果的で論理的な文章を作成するための表現スキルについて理解する(新聞記事を材料とする) |
| 6 | 文章表現力について③ | 効果的な文章表現スキルについて認識を高め、相手を想定した適切な文章を作成する | 効果的で論理的な文章を作成するための表現スキルについて活かして書く(新聞記事を読んだ感想を実際に書く) |
| 7 | 文章表現力について④ | 効果的な文章表現スキルについて認識を高め、相手を想定した適切な文章を作成する | 相手を想定した文章(実習のお礼等)を実際に書き、自己評価することができる |
| 8 | 総括 終講試験 | 文章表現に係る理論及びスキルについて整理・確認する | 文章表現に係る理論及びスキルについて理解し、文章表現に関する認識を形成する |

【評価方法】

「授業態度」・「小テスト」・「終講試験」等で評価する

「授業態度」は、毎回の積極的な発言を重視する

【参考図書等】

必要に応じて資料を配布する

【実務経験】

| | |
|--------|------------|
| 科目名 | コミュニケーション論 |
| 授業形態 | 講義 |
| 開講時期 | 1年後期 |
| 時間数・単位 | 15時間・1単位 |
| 授業担当者 | 原田 義則 |

【学習目標】

現代社会におけるコミュニケーション能力の重要性を理解し、歯科衛生士の職務場面を想定した演習を通して、各自のコミュニケーション能力の向上を図る

【授業計画】

| 回 | 授業題目 | 授業内容 | 到達目標 |
|---|---------------|---|---|
| 1 | コミュニケーションの重要性 | Society 5.0を迎える現代社会において、コミュニケーション能力の重要性を理解する | 現代社会に求められているコミュニケーション能力とは何かについて理解する |
| 2 | コミュニケーションの内実1 | コミュニケーションに関する理論について理解することで、職務遂行の上で役に立つコミュニケーション能力の向上を図る | コミュニケーション理論及びコミュニケーション・モデルについて理解する |
| 3 | コミュニケーションの内実2 | コミュニケーションに関する理論について理解することで、職務遂行の上で役に立つコミュニケーション能力の向上を図る | コミュニケーション・ノイズの種類について理解し、その解消法について習得する |
| 4 | コミュニケーションの内実3 | コミュニケーションに関する理論について理解することで、職務遂行の上で役に立つコミュニケーション能力の向上を図る | ノンバーバルコミュニケーションの要素と機能について理解する |
| 5 | コミュニケーションの実際1 | これまでの講義内容を生かしながら、TPOに応じたコミュニケーションのあり方について実践し、理解を深める | 社会や職場といった「組織内」におけるコミュニケーションの在り方について実践的に理解する |
| 6 | コミュニケーションの実際2 | これまでの講義内容を生かしながら、TPOに応じたコミュニケーションのあり方について実践し、理解を深める | コミュニケーションを円滑にするリスニングの在り方について実践的に理解する |
| 7 | コミュニケーションの実際3 | これまでの講義内容を生かしながら、TPOに応じたコミュニケーションのあり方について実践し、理解を深める | 来院患者を想定したコミュニケーションの在り方について実践的に理解する |
| 8 | 総括 終講試験 | コミュニケーションのあり方について学んだことを整理・確認する | コミュニケーションのあり方を整理・確認することができる |

【評価方法】

「授業態度」・「小テスト」・「終講試験」等で評価する

特に、コミュニケーション能力は実践力を伴うので、毎回の積極的な発言を重視する

【参考図書等】

必要に応じて資料を配布する

【実務経験】

| | |
|--------|-------------|
| 科目名 | 職業教育 |
| 授業形態 | 講義 |
| 開講時期 | 1年後期 |
| 時間数・単位 | 20時間・1単位 |
| 授業担当者 | 坂田 桂一・糸田 彩佳 |

【学習目標】

自分たちが学んでいる職業のための教育は、自分にとってまた社会にとってどんな意味があるのかを考えられる広い視野を持つ
そして今後の自分のキャリアについての見通しを持つ

【授業計画】

| 回 | 授業題目 | 授業内容 | 到達目標 |
|----|------------------|----------------------------|--------------------------------|
| 1 | 職業とは何か | 社会生活の様々な側面の中で、職業の持つ意味を考える。 | 自己の将来にとっての職業の意義を考えることができる。 |
| 2 | 人間はなぜ働くのか | 労働や職業に関する理論的整理 | 労働や職業のもつ価値について、多面的に考えることができる。 |
| 3 | さまざまな働き方 | 会社で働く、自営業、フリーランスなどの様々な働き方 | 各種雇用形態や働き方の概要について知る。 |
| 4 | 社会の発展と職業や働き方の変化 | 職業の変遷とこれからの変化 | 職業や労働に関わる変化について理解することができる。 |
| 5 | どのように職業を選択しているのか | 様々な人々の職業選択の要因 | 職業選択の要因について自分なりに分析し、考えることができる。 |
| 6 | 働く環境 | 労働をめぐるさまざまな問題 | 労働に関わる問題とその基本的対応について考えることができる。 |
| 7 | 職業資格 | さまざまな職業資格とその意義 | 職業資格とその意義について知る。 |
| 8 | キャリア形成 | これまでの授業で得た知識を自己のキャリア形成に生かす | 自己のキャリア形成についての考えを持つことができる。 |
| 9 | 歯科衛生士の職業① | 歯科衛生士として働く意味、役割 | 臨床現場で働く歯科衛生士の役割・やりがいを知る |
| 10 | 歯科衛生士の職業② | 歯科衛生士として働く意味、役割 | 臨床現場で働く歯科衛生士の役割・やりがいを知る |

【評価方法】

試験を行う

【参考図書等】

必要に応じて資料を配布する

【実務経験】

| | |
|--------|----------|
| 科目名 | 手話 |
| 授業形態 | 講義(演習含む) |
| 開講時期 | 2年後期 |
| 時間数・単位 | 20時間・1単位 |
| 授業担当者 | 大久保 正代 |

【学習目標】

聴覚障害の特徴を理解し、聴覚障害者のコミュニケーション手段の一つである手話を使って自己紹介および歯磨き指導において大切なポイント手話を用いて説明ができるようになる

【授業計画】

| 回 | 授業題目 | 授業内容 | 到達目標 |
|----|-----------|-----------------------|---|
| 1 | 聴覚障害とは | 聴覚障害者の生活、手話での挨拶・自己紹介 | 聞こえないということはどういうことか、聴覚障害者の生活を知る |
| 2 | 聴覚障害者への配慮 | 聴覚障害者への配慮、手話での挨拶・自己紹介 | 手話とは何か、聴覚障害者とのコミュニケーションについて知る |
| 3 | 手話で自己紹介 | 手話での自己紹介の実践 | 手話をつかった自己紹介、家族や趣味を紹介できる |
| 4 | 手話実技① | 数字、曜日の手話 | 手話をつかった数字、曜日、昨日何をしたかを話すことができる |
| 5 | 手話実技② | 耳の仕組み、聴覚障害、これまでの復習 | 耳の仕組みや聴覚障害について理解する。また今までの手話を復習しアルバイトで使える手話での会話を習得する |
| 6 | 手話実技③ | これまでの復習、手話を用いた会話 | 昨日何をしたか手話で話し、友人に聞くことができる |
| 7 | 手話実技④ | 手話を用いた会話、場所・行き方 | 場所や行き方について手話で会話することができる |
| 8 | 手話での歯科指導① | 手話を用いての歯磨き指導① | 手話をつかって歯科指導の練習、実践、筆談の仕方ができる |
| 9 | 手話での歯科指導② | 手話を用いての歯磨き指導② | 手話をつかって歯科指導の練習、実践、筆談の仕方ができる |
| 10 | 試験・講評 | 試験 | 手話表現(自己紹介)レポート(手話の授業を通じて感じたこと) |

【評価方法】

授業への参加姿勢、手話の習得度(実技試験)にて総合的に評価し、100点満点の60点以上を合格とする

【参考図書等】

「今すぐはじめる手話テキスト 聴さんと学ぼう」市民向け手話学習テキスト編集委員会編集(一般財団法人全日本ろうあ連盟出版)

【実務経験】